

審査の結果の要旨

氏名 サイード ザイノル アビンディン アイディッド

本論文はマレーシアの歴史都市であるマラッカを事例として、その都市計画ガイドライン作成という具体的な作業を通して、多層の植民地の歴史と華僑の歴史を有する都市の文化的多様性を保全しつつ都市保存を進めるという方法論を明らかにし、その際に留意すべき諸問題を解明したものである。

論文は8つの章から成っている。

第1章は、序説であり、本研究の意義および研究上の課題を明らかにしている。同時に研究対象国であるマレーシアにおける都市保存の状況を述べ、対象都市としてマレーシアの歴史都市マラッカを採り上げることの妥当性を明らかにしている。

第2章は、文献研究であり、既往研究を通して都市保存の定義及び諸問題を明らかにしている。そのうえでひろく文化財保護の制度のあり方の国際的な比較検討を試みている。さらに、マレーシアにおける都市保存に関する法制度ならびに行財政制度を明らかにしている。

第3章は、研究対象都市であるマレーシア・マラッカの都市形成の歴史を明らかにするとともに、建築様式の側面から見た歴史地区の概要を街路別に明らかにしている。これらの作業を通して、マラッカの歴史的建築的資産の全貌が明らかにされている。

第4章は、マラッカの都市計画のうち基本計画（ストラクチャー・プラン）において都市保存がどのように位置づけられているかを明らかにし、都市計画の中に都市保存の仕組みを組み込む際の一般的な考え方を論じ、都市保存の計画的側面をマレーシア全国に通じる視点で明らかにしている。

第5章から始まる3つの章は、マラッカのうち歴史的に特に重要な中心地区に関して詳細な調査をもとに都市保存計画の具体的な方法を提起している。

第5章では、保存地区の地区詳細計画立案に至る具体的な現況調査の方法および計画立案の方法論が詳細に述べられている。さらにすすんで、建物利用や地区内交通の処理など地区計画のガイドラインの諸項目を検討し、どのようなガイドラインの立て方が最も適切なのかを明らかにしている。とりわけ、生きた都市の保存を実施するにあたって留意すべき点として、伝統的な商業、街路における諸活動の特色を捉え、その保全を図る方策が述べられている。これと物的な保存計画とが両立することによって、生きた都市の保存計画が十全のものとなるという制度的な枠組みを具体的に提示している。

第6章では、マラッカにおける保存地区のガイドラインの詳細を考察し、その有効性を論じている。検討されているガイドラインの項目は、建築物の保存状況や建築様式から建築物の増改築、防災、屋外広告物、照明、街路舗装、河川など多岐にわたっている。これらの事例を通してガイドラインの項目の妥当性とその普遍性を個々に論じている。

第7章は、ここまでに論じてきた都市保存を地域住民にとって受容できるか否かは計画への住民参加の適切な方法にかかっていることを示し、そうした参加型計画立案の種々の手法を提起している。また、都市保存の次の段階において常に問題となるツーリズムの問題を採り上げ、その対策を都市保存の当初計画のうちに組み込むための具体的な提案をおこなっている。

以上の議論を受けて結論と提言を述べる第8章では、合計8点にのぼる計画論的提案と実地的な提言とを行っている。このうち主要なものとして、有形の文化遺産と同時に無形の文化遺産を評価する視点を計画立案当初から保持しておくこと、都市基本計画を都市保全計画の戦略的な基礎として位置づけること、歴史地区の画定にあたって多様で幅広い資産目録（インベントリー）の作成が効果的であること、都市基本計画を深化させることにつながるように地区詳細計画の立案行為を計画プロセスの中で位置づけること、都市の総合的なイメージ形成を重点的な政策目標として提起すること、計画への市民参加の目に見えるモデルをあらかじめ提起しておくこと、都市保存基金の設立などがあげられる。

文化的に多様性を有する都市の保存問題は単純な都市のアイデンティティ強化策として論じることは不適切であり、より慎重かつ総合的な地域支援策の一環として論じられなければならないことが本論文によって明らかにされたということが出来る。

以上の調査研究結果の総括によって、本研究はマレーシアの歴史都市マラッカの都市保存のみならず、一般に複数民族の並存や植民地の歴史など、文化的な多様性を有する都市全体に対して、その都市保存の普遍的な方法論を提起することに成功している。同時にそのような歴史都市の保存計画およびガイドラインの立案に当たって実際的かつ有効な提言を数多く行っている点で非常に有用であるといえる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。